



さいたま新都心に一番近い学校

下落合小だより

学校目標 よく考える子 思いやりのある子 明るく元気な子

平成30年7月号

平成30年7月2日

さいたま市立下落合小学校

電話 852-2280

FAX 852-0188

「経験は、一生の宝もの」

校長 横井寿彦

先日、近所の方からお電話をいただきました。突然雨が降ってきたので、お店の前を通った2人の子どもに「傘を貸してあげるよ。」と声をかけたところ、女の子は「近いので、大丈夫です。お気持ちだけで結構です。」と答えたそうです。男の子は「ありがとうございます。今日、この後出かけるので帰りにお返しします。」と言って傘を借りたそうです。翌日、その男の子が「傘が濡れていたもので、一日干して返しにきました。ありがとうございます。」と言って返しに来たとのこと。「大人でもできない対応です。」とたいそう感心されて、お電話をいただいた次第です。下小の宝ものにしたいたいお話ですね。ご家庭や地域の力のおかげで、素晴らしい子どもたちに育っています。ありがとうございます。

さて、7月20日には1学期の終業式を迎え、いよいよ子どもたちが楽しみにしている夏休みに入ります。夏と言えば、プール、山、海、スイカ、かき氷、夕立、お祭り・・・私が夏と言って思い浮かぶのが「真っ黒になった顔！」小学校時代は、外で夢中になって遊んでいました。そんな遊びの中で学んだのは、友達とのかかわり、そして自然の素晴らしさや怖さです。私は、旧大宮市の小学校を卒業していますが、同級生の中に、夏の自由研究で「ホタルの生息」について取り組んだ人がいるほど、自然が豊かでした。カブト虫もよく捕りにいきました。今はデパートで売っている時代。ちょっと残念な気がします。私が大好きで応援している人の一人に、海洋冒険家の「白石康次郎」さんという方がいます。ヨットに乗り、単独無寄港で世界一周をされる方です。彼が著書「精神筋力」の中で次のように書いています。「大自然のなかでも、今の子供たちはやはりおとなしい。このプロジェクトで子供たちと沖縄に行ったとき、ジャングルジムのように枝が伸びているガジュマルの木を見て、真っ先に登ったのは僕だった。子供たちは誰もあとにつづいてこない。『登りたいと思わない?』上から聞くと、『登ってもいいんですか?』と逆に聞かれた。僕らの子供時代は衝動で動いていたが、今の子供はいいか悪いかをまず考える。その結果、たいてい無難なほうを選ぶので、行動は著しく制限されてしまう。でも、今どきの子供たちも、一度気持ちが開放されれば、木に登ったり、沢や磯で虫を採ることに熱中する。自然のなかでゲームを取り出す子など一人もいない。」

体験は、自然体験だけではありません。地域のお祭りに参加し郷土愛に触れること、美術館などで本物の絵画を見ること、スポーツなどで一流と言われている人のプレーを見ること、読書で先人の考えに触れ追体験し、自分の思いをふくらませることなど、体験する機会はたくさんあります。先日の6年生の校外学習でも、国会議事堂で模擬法案審議を体験したり、江戸東京博物館で大名かごに乗ったりするなどの体験をしてきました。

さあ、子どもたちがこの夏、どんな体験をしてくるのか、とても楽しみです。そして一回りも二回りも大きくなった子どもたちに、元気に2学期に会えるのを楽しみにしています。ご家庭の皆様も事故や健康には十分注意され、貴重な夏休みをお過ごしください。